

不動産部より 感謝 喜びの声！



皆様、お元気でしょうか！代表の息子の麻田秀人です！
ご無沙汰しております！久しぶりの登場ですが、私は相変わらずめちゃくちゃ元気であります！

今年の夏は暑かったり、オリンピックがあったり、雨が多かったりといろいろですが、
皆様がお元気でいらっしゃることを願っております。

最初に1つ、私はこのオフィスASADAにおいて、不動産の仕事だけをしていると思われている方がたまにいらっしゃいますが、実はそうではなくて、母親同様、生命保険のお仕事も行っています！
入社して以来、毎月誰かしらの生命保険のお手伝いを実際にに行っております。
最近ではそんな私が携わったお客様の中に、給付金のお支払いのお手続きをさせて頂いた方もいて、その方に「加入していて良かった！」という喜びのお声も頂戴し、私自身も嬉しさを感じている次第であります。

何かありましたら
私にもお気軽に
お声かけくださいね！



不動産部門からの耳より情報

不動産市況に関する耳より情報です。

よく「今は売り時ですか？」とお聞きになられる方がいらっしゃいます。実際はどうなのか？

一つの客観的な情報として、これは公益社団法人東日本不動産流通機構のデータとして令和2年7月～令和3年6月までの1年間の数値として、全ての月、つまり12ヶ月連続で新規に登録された売物件の数が前年の同月比において下回っている、のであります。これは何を意味しているのか？

結論、流通している物件の数が日に日に少なくなっている。少ないわけですから、1件1件の物件の希少性が高まってくる。お探しの方の数は相変わらず活発な現状ですので、最終的には物件の価値及び物件価格を上昇させているのです。

これは紛れもない事実であり、そして現場にいる私の感覚としても同じ事を感じております。

不動産をお売りになられる時には、その方のお気持ちがとても大事であると長年思っております。

ですからそういう気持ちではないのに、無理にお売りになられるものではありません。

ただ、今のこの流れに大いに期待して、良い結果を導き出せる可能性は否定できません。

そんな今の「流れ」や「タイミング」を大切にして、一步踏み出すきっかけにするのも良いかもしれませんね。



お聞きになりたいことがあります、いつでもお気軽にご相談下さいね！

～感謝を込めて～



2月お引渡し完了
ありがとうございました！



4月お引渡し完了
ありがとうございました！



7月ご成約
ありがとうございました！

ASADA 通信

Vol.
91

2021年8月

今月のテーマ

- I 稲盛和夫氏の **人生を照らす言葉！**
- II 2020東京オリンピック **世界中から感謝のメッセージ続々と**
- III パラリンピック選手の **心に響く言葉**
- IV 不動産部門からの耳より情報

想いをのせて 感謝 ありがとう

2021年7月23日近代五輪史上初めて、1年の延期を経て、新型コロナウイルス感染拡大の脅威という異例の中の開会式を迎えた。アスリートたちは、明日が見えない中、悩んで、やるべき事に気付いて挑み続けていたのです

205の国と地域と難民選手団。参加人数11,092人33競技、339種目、過去最大規模のオリンピックの開催でした。選手たちから中止や再延期を求める声はほとんど上がっていました。選手たちが受ける制約は前例のないものばかり。それでも、スポーツがある日常を取り戻すため、選手は厳しいルールを受け入れた。そのような厳戒の中での開催だったのだ。

組織委員会は首都圏など多くの会場を無観客とした。試合を終えたばかりの選手を来日できなかつた家族とオンラインで結んだり、海外から届く応援動画を競技会場の大型ビジョンに映し出したりと、制約下に知恵を絞った「おもてなし」を試みた「東京モデル」が後世への足跡を残したのは確かである。メダリストのほとんどの人からは「多くの人に支えられてメダルが取れたのです。心から感謝しています」とのメッセージは世界中に配信されたのです。

アスリートの皆さん！ たくさんの感動をありがとう！



お若いと 言われマスクを 外せない



信頼と実績で皆様に愛されて35年！
生命保険・不動産の売却・買い取り すべてお任せください！



株式会社
オフィス ASADA

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28 E-mail : officeasada220@gmail.com
TEL : 0297-72-2401 FAX:0297-72-6217 URL : https://officeasada.com

代表取締役 麻田 春江



II 2020東京オリンピック 世界中から感謝のメッセージが続々と

11カ国の代表から成る難民選手団29人が12競技に出場し、世界最高峰の舞台で誇りを持って戦いました。難民アスリートたちは、他の国の選手と並んで、自分の能力を發揮し、価値ある経験ができたことを嬉しく思っています。世界各地で故郷を追われた8,240万人の代表として確固たる信念、決してあきらめない姿はメダルを獲得できずとも、世界中の聴衆の心に希望と生き抜くチカラを届けたのです。今回、オリンピックの舞台に立っただけでも難民アスリートにとっては偉業です。



陸上で活躍したピュール選手はパラリンピック難民アスリートにメッセージを送ります。

「あとは、すべてあなたの覚悟です。障害があるなし、出身にかかわらず、若い世代への道をあなたたちがつくるのです。そして希望こそが難民の若者に重要なのです」

東京2020パラリンピック競技大会では、6人の難民アスリートが4競技で戦います。

【オリンピズムの根本原則の4の一部より】

スポーツをすることは人権の一つである。全ての個人はいかなる種類の差別を受けることはなくオリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。

【泳げて幸せでした】 池江 瑞花子選手(21)競泳・日本

白血病を乗り越え、出場の切符を手にした池江選手。

3つのレースに参加したがメダル獲得には届かず。

競技後のインタビューでは「一度は諦めかけた東京五輪だったけど、またリーメンバーとして決勝の舞台で泳ぐことができて幸せでした」と語り人々を感動の渦に包んだ。



【スポーツマンシップの鑑】 チョ・グハム選手(29)柔道・韓国

柔道男子100キロ級の決勝戦で日本代表のウルフ・アロン選手と対戦したチョ選手。激闘の末にウルフ選手が金メダルを獲得するとチョ選手はウルフ選手の腕を高く振り上げ勝利を称えるように指を向けた。

SNSには「立派でした。感動をありがとう」スポーツマンシップの鑑だ！」など、チョ選手の行動に多くの称賛のコメントが寄せられた。

【空手の初代王者】 喜友名 謙選手(31)空手・日本

東京五輪の新競技となった空手の「形」では、日本の喜友名選手が金メダルを獲得し圧倒的な強さを見せつけた。競技後、タタミの中央で正座で一礼。

そんな姿に世界中から「日本の武道はかっこいい」の賛辞が！

それに対し「すべてに感謝する気持ち、尊敬を持つことが大切」とコメント。

その言葉もまた「素敵！」と人気がうなぎのぼり。



【男子アーチェリー団体戦】 韓国/金・台湾/銀・日本/銅

アジア圏がメダルを独占。競技後に3カ国が集まって仲良く記念写真を撮る様子が報じられる「(韓国のガールズグループ)TWICEみたい」とネットが大盛り上がり実はTWICEの多国籍なメンバーも、韓国、台湾、日本の3カ国。反響の多さから今後アーチェリーの人気が昇るのでは…。



【レオタードは着ない！抗議のユニタード】 ドイツ代表/体操・ドイツ

ドイツの女子体操選手たちが着用したのは、レオタードではなく、くるぶしまで覆われたユニタードと呼ばれるもの。ドイツチームは「女性アスリートが性的な対象として扱われていることへの抗議」として取り入れたという。ビーチハンドボールの試合でも、ノルウェーのチームがビキニパンツの着用を拒否。短パンを穿いてプレーしたら罰金を科せられ大きな話題に。

女性アスリートの、盗撮や性的な目的で撮影されるような問題が多発していることからも世界中でユニフォームの見直しをもとめる声が大きくなっている。



2021年8月8日イレギュラーな対応を迫られた中でも、世界中に感動を届けた今回のオリンピックについてTwitterやSNSなどで世界中から閉会を惜しむ声が数多く届いた。

東京五輪を“成功”に導く原動力となったのが、大会を陰で支えたボランティアの存在だった。

閉会式では、開会式同様に橋本聖子IOC会長、トマス・バッハIOC会長からの挨拶があった。バッハ会長も挨拶で「すべてのボランティアの皆さんに誠にありがとうございました」と日本語で感謝の意を示した。

閉会式終盤では42.195キロマラソンの表彰式も行われ、ケニアの国歌が2回流れ、SNS上で反響を呼びました。その後は、アイヌ舞踊、琉球舞踊が披露され、東京スカパラダイスオーケストラの「鬼滅の刃」のテーマソング、坂本九さんの「上を向いて歩こう」、DJ松永さん、シンガーソングライターのミレイさんなどのアーティストによる音楽。

次回開催のパリへの引継ぎで、パリから届いた映像も流れた。

オーケストラによる国歌の演奏のほか、国際宇宙ステーションからサックスの演奏が届き、パリの街を巡ったBMXのパフォーマンスエッフェル塔周辺のアクロバット飛行映像を見て

3年後の開催に思いを膨らませる声が集まっている。



III パラリンピック選手の心に響く言葉！

6歳まで手で歩いた陸上の鉄人 タティアナ・マクファデン

「Ya Sama」(ヤ・サマ) ロシア語で「私にはできる」!

パラリンピック車いす陸上7冠を目指す
タティアナ・マクファデンの人生から私たちの心に響くものとは



ロシア生まれ。二分脊椎症による先天性半身不随。6歳までロシアの孤児院で育つ。

本来脊椎の中にある脊椎が外に出てしまう病を患った状態で出生。「長くは生きられない」と医師の診断があり、実母は養育を諦め、6歳までサントペテルブルクの児童養護施設の中だけで育つ。

背中が裂けた状態で生まれ、6歳まで車イスも与えられず、手で這ったり、逆立ちをして歩いていた。

転機が訪れたのは1994年、視察のため孤児院を訪れた米国保健局の障害者担当官デボラがタティアナと出会う。互いに目が合って感じるものが合った。女性は「あの子を養子として連れて帰る」と。

それでタティアナはアメリカにやってきた。全く外の世界を知らなかったので、車イスにびっくり。青空を見てびっくり。

人を見てびっくり。目に映る全ての世界が、新しく、自由でポジティブなものに変わっていた。

アメリカに移住すると、学校に通うかたわら、デボラからスポーツの機会を積極的に与えられ、水泳や車イスバスケットボール、アイススレッジホッケーなどさまざまなスポーツに挑戦。孤児院時代に車イスがなく逆立ち歩きをしていたため、自然と上半身が鍛えられていたようで、すぐにアスリートとしての才能を開花させる。なかでも、車イス陸上は、そのスピード感に夢中になった。

2002年、13才の時には米国ジュニア選手権で年代別の世界記録を更新して優勝。その後、アテネオリンピック4大マラソンのグランドスラム達成!など、数々のメダルを勝ち取る。

しかし、高校で陸上部に入るが「車イスは危険」という理由から、健常の生徒に混じって競技することを禁止され、「車イスの部」として一人で走るよう指示された。

タティアナと母のデボラは2005年、地元メリーランド州の公立校制度に対し、障害のある生徒の学校対抗戦への出場など、「機会均等」を求める訴訟を起こす。

勝訴した後も、さまざまな運動を続けた結果、2008年に同州で新たな法律、学生のためのフィットネスと陸上競技の公平性と障害者法が制定される。これは“タチアナ法”とも呼ばれ、のちに全国各地で行われた。同様の法律づくりのきっかけになったという。これも、タティアナによる「史上初」の功績だろう。

陸上でも第一線で活躍を続け、ロンドン大会、世界選手権では、出場した全てで金メダルを獲得。女子選手して「史上初」の快挙を遂げている。2015年にも年間グランドスラムを連続達成、ほかの追随を許さない。

“Ya Sama！”と口ずさみながら、更なる高みを目指して、終わらない挑戦を続けている。

何故挑戦を続けるの？の問い合わせに「実母、養母”二人の母”に、レースに挑む姿を見てほしいと思ったから」と語る。

2020東京オリンピックでの活躍に心から大きな声援を送りたいと思う。

そして、私たちも Ya Sama(ヤ・サマ 私にはできる) そうです !! Ya Sama で頑張りましょう !!